

新プレミアム遺伝子検査 結果レポート



様

採取日

2020/3/10

【責任者】 高村メカヘルラボ 江原麻文
東京都品川区北品川1-37-1 アドバンス上地1号



遺伝子検査結果一覧

| 種類 | 遺伝子名 | 機能 | 結果 | あなたのタイプ |
|---------|--------------|---|----|---------|
| 健康 | ADRB3 | 日本人の3分の1が持っていると考えられる、内臓脂肪の付きやすさに関連する遺伝子。別名「炭水化物太り遺伝子」とも呼ぶ。 | 2 | レベル中 |
| | ADRB2 | 手足が細くて質弱な体系が特徴的、筋肉の付きにくさに関連する遺伝子。別名「筋肉不足遺伝子」とも呼ぶ。 | 2 | |
| | UCP1 | 日本人の4分の1が持っていると考えられる、皮下脂肪の付きやすさに関連する遺伝子。別名「脂肪太り遺伝子」とも呼ぶ。 | 2 | |
| | FTO1 | エネルギー消費と自律神経のバランスに関わる遺伝子。別名「肥満遺伝子」とも呼ぶ。 | 2 | |
| 運動 | ACTN3 | “持久力の必要なスポーツ”と“瞬発力の必要なスポーツ”のどちらに向くかが分かる遺伝子。 | 2 | ハイパワー系 |
| | PQC-1a | エネルギーの代謝を担うミトコンドリアの活性化と繁殖に関わる遺伝子。運動負荷への体制能力が分かる。 | 3 | レベル高 |
| アルコール代謝 | ADH1B | エタノールをアセトアルデヒドに変える酸化酵素をコードする遺伝子。この遺伝子が少ない場合、酩酊状態やアルコール依存症になりやすい。 | 3 | 6 |
| | ALDH2 | アセトアルデヒドを酢酸に変える酸化酵素をコードする遺伝子。この遺伝子が少ない場合、酔いしれやすく頭痛や吐き気を起こしやすいと言われる。 | 2 | |
| AGA | PAX1 / FOXA2 | 男性型脱毛症（AGA）に関連する遺伝子。 | 1 | レベル低 |
| アレルギー | NTN4 | この遺伝子に変異があると、金属アレルギー反応が起こりやすくなる。 | 2 | レベル中 |
| 性格 | FKBP5 | セロトニンが関与する換気回避（行動制御）。セロトニンの働きが活発なほど、落ち着きがあり慎重な性格になります。 | 低い | 冒険家 |
| | DRD4 | ドーパミンが関与する新奇性探究（行動促進）。ドーパミンの働きが活発なほど、好奇心旺盛で積極的な性格になります。 | 高い | |
| | TPH2 | ノルアドレナリンが関与する、報酬依存（行動調節）。ノルアドレナリンの働きが活発なほど、奉仕欲求が強く、気配り上手な性格になります。 | 低い | |
| 健康 | MMP1 | コラーゲンを分解を促す遺伝子。 | 2 | レベル中 |
| | ASIP | メラニンを合成する働きがある遺伝子。 | 1 | |
| | SPINK5 | 皮膚のバリア機能に関係する遺伝子。 | 2 | |

毛根で調べる遺伝子検査

「性格」「かかりやすい病気」「肥満の傾向」「アルコール感受性」の4つを調べるための遺伝子検査です。遺伝子には、「生まれてから死ぬまで変わることのないDNA」と、「環境によって左右されるRNA」の2種類があります。前者のDNAの検査によって判明するものとなります。

肥満

肥満リスク判定

肥満と遺伝子の関係

肥満遺伝子と呼ばれる代謝に関わる遺伝子が多数見つかっています。遺伝的に太りやすい体質でも、100%肥満になるというわけではなく、環境による要因が大きくかかります。肥満体型の両親の子供が太りやすいのは、遺伝的な要因は低く食習慣や運動習慣などの生活習慣によることが大きいとされています。遺伝子検査の結果、肥満リスクに対する遺伝的傾向が解明できれば、食生活や運動などの生活習慣を見直したり、健康診断をこまめに受けるなど、自分なりの対策を講じることが可能となります。

肥満とは……

肥満とは、見た目が太っている人を指す言葉と思いがちですが、日本肥満学会では「BMIが25以上」という明確な判定基準を設けています。BMIとは、身長と体重から計算される肥満指数のことで、体脂肪の正常値を22とし、それ以上のときに肥満と判断されるのです。生活習慣病をはじめ、多くの病気の温床となっている肥満は、皮下脂肪型肥満と内臓脂肪型肥満の2つのタイプがあり、死の危険を伴うような合併症を引き起こすのは内臓脂肪型肥満だと言われています。我が国には欧米人のような超肥満の方は少ないようですが、一般的に日本人はインスリンの分泌能力が低いので小太り程度でも高血圧や糖尿病にかかるケースが多いので油断は禁物です。



アルコール代謝別アドバイス

アルコール代謝に関する遺伝子検査では、大きく分けて3つに分類しています。

レベル1-3の方は……アルコール代謝能力が低く、ごく少量でも赤くなり、不快な症状が強く出やすいタイプ。アルコールは“少量でも毒”になる体質のため不快な症状に慣れてお酒が進むようになったら要注意。ほろ酔い気分が長く続くため、飲んで24時間以内の車の運転は避けたほうが良いでしょう。

レベル4-6の方は……お酒には強くないけれど不快な症状も出にくいというタイプです。アルコール代謝能力は高くないのに、ついつい飲み過ぎてしまう傾向があり、アルコールの善性によって口腔癌・食道がんなどの発がんリスクが高くなります。

レベル7-9の方は……お酒が好きで大酒飲みになりやすい、酒豪タイプ。アルコール代謝能力は高く、かなりの量を飲んでも変わりません。但し、他の遺伝子タイプと比べてアルコール依存症のリスクが約10倍との報告もあります。

一般的に、飲酒訓練をすれば強くなるとの説もありますが、遺伝的な分解能力は後天的に大きく変わることはありません。急性アルコール中毒やアルコール依存症、がんのリスクなどを回避するためにも、遺伝子検査で自分の適量を把握しましょう。

| レベル1 | レベル2 | レベル3 |
|--|--|---|
| まったくお酒が飲めない下戸タイプです。ほんのわずかな飲酒で顔がくんだり、眩気に襲われ、手足の先が冷たくなったりします。 | レベル1とほぼ同じ下戸タイプで、同様な症状を引き起こします。 | ほんの少し飲めますが、体質的に合いません。勢いで飲んでしまうと、急性アルコール中毒のリスクがあります。 |
| レベル4 | レベル5 | レベル6★ |
| やや飲めるタイプです。続けて飲んでいると、ある程度飲めるようになりますが、喉頭がんや食道がんのリスクが高まります。 | 飲めるタイプです。顔は赤くなりますが、レベル4同様、飲み続けていると喉頭がんや食道がんのリスクが高まります。 | 飲めるタイプです。飲酒すると顔は赤くなります。程度は軽めです。続けて飲み続けていると喉頭がんや食道がんのリスクが高まります。また、ほろ酔い気分が長く続くため、アルコール依存症になりやすく要注意です。 |
| レベル7 | レベル8 | レベル9 |
| アルコールは強めのタイプです。飲酒しても顔は赤くなりませんが、アルコールの分解は遅いので、酒が残ったりしやすいタイプです。ほろ酔い気分が長く続くため、アルコール依存症にもなりやすく要注意です。 | アルコールは強いタイプです。アルコールもアセトアルデヒドも分解は速く、それゆえ飲みすぎの傾向もあるので要注意が必要です。 | チャンピオン級にアルコールに強いタイプです。二日酔い知らずで、相当量の深酒でもケロッとしているタイプですが、酒量はほどほどに。 |

体質に合ったダイエット法や自分のアルコール耐性を知る

肥満体質の傾向は全部で243パターンにのぼります。自分がどの遺伝子をいくつ持っているかで、脂肪の付き方や「炭水化物によって太る体質なのか、それとも脂質によって太る体質なのか」といったことも分かります。アルコールの感受性を左右する遺伝子は、全く飲めない人からアルコールの代謝がいい人まで9段階に分かれています。

口腔内フローラ検査



様

解析ID

口NGS-0000081

総合レポート

※NA：該当データ無し

| 解析項目 | リスクスコア |
|--------------|--------|
| 虫歯 | ■ |
| 歯周病 | ■ |
| 肥満 | ■ |
| 2型糖尿病 | ■ |
| 潰瘍性大腸炎 | ■ |
| クローン病 | ■ |
| 掌跖膿疱症 | ■ |
| アトピー性皮膚炎 | ■ |
| 関節リウマチ | ■ |
| 全身性エリテマトーデス | ■ |
| シェーグレン症候群 | ■ |
| ベーチェット病 | ■ |
| 自己免疫性肝疾患 | ■ |
| 自閉症 | ■ |
| 口腔がん(扁平上皮がん) | ■ |
| 胃がん | ■ |
| 膵臓がん | ■ |
| 肺がん | ■ |
| 咽頭がん | ■ |

リスク平均

このアルゴリズムでは、自分のフローラ環境が平均よりも悪玉菌量>善玉菌量になっているかどうかをリスクスコアと表しています。一般的なリスク比とは異なる意味である点にご注意くださいませ。

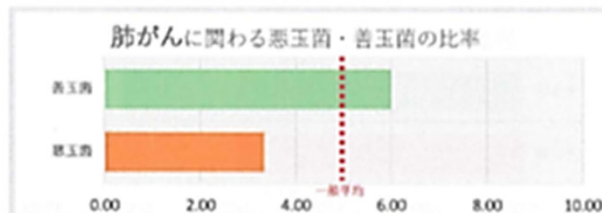
口腔内フローラのPCR検査

腸や口腔内には数百～数千種類を超える細菌が存在しており、私たちの免疫系や生体機能に大きな影響を与え、健康維持にも重要な役割を果たしています。口腔内フローラ検査ではわずかな唾液を採取し、8種の菌数を測定することで口腔関連疾患・全身疾患のリスクを調べる

肺がんに関する検査結果

現在のあなたの口腔内環境は、リスクスコアは10段階中 **3** です。

肺がんリスクはやや低い状態です。



肺がんに関わる口腔内細菌数の詳細



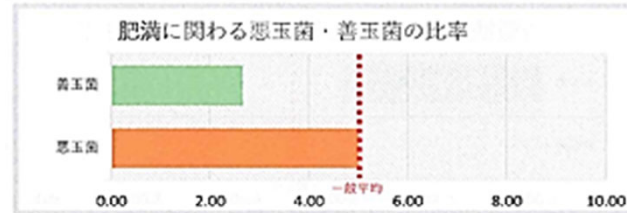
<参考文献>

- Yang J, et al. Dysbiosis of the Salivary Microbiome is Associated With Non-smoking Female Lung Cancer and Correlated With Immunocytochemistry Markers. *Front Oncol.* 2018 Nov 20;8:1520. (査読有り)
- Zhang W, et al. Salivary Microbial Dysbiosis is Associated with Systemic Inflammatory Markers and Predicted Oral Metabolites in Non-Small Cell Lung Cancer Patients. *J Cancer.* 2019 Mar 22;10(7):1661-1662. (査読有り)

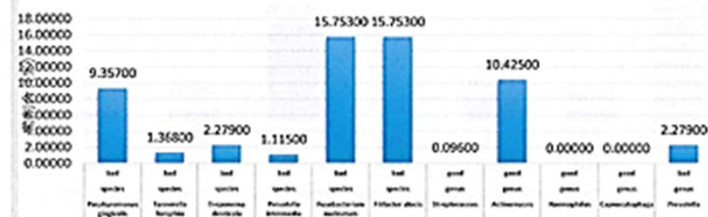
肥満に関する検査結果

現在のあなたの口腔内環境は、リスクスコアは10段階中 **7** です。

肥満リスクはやや高い状態です。



肥満に関わる口腔内細菌数の詳細



<参考文献>

- Janon MF, et al. Salivary inflammatory markers and microbiome in normoglycemic lean and obese children compared to obese children with type 2 diabetes. *PLoS One.* 2017 Mar 2;12(3):e0172647.
- Long J, et al. Association of oral microbiome with type 2 diabetes risk. *J Periodontol Res.* 2017 Jun;52(3):636-643.
- Wu Y, et al. Characterization of the salivary microbiome in people with obesity. *PeerJ.* 2018 Mar 15;6:e4458.

口腔内フローラ検査

口腔内フローラのアンバランス=ディスバイオーシスから生じる各種疾患リスク検査です。

虫歯、歯周病、肥満、糖尿病、るい痩、アレルギー、潰瘍性大腸炎、過敏性腸症候群、クローン病、アトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症、乾癬、リウマチ、ベーチェット病、シェーグレン症候群、大腸がん、口腔がん、食道がん、胃がん、すい臓がん、咽頭がん、自閉症、うつ病のリスク判定ができます

腸内フローラ検査



腸NGS-000013

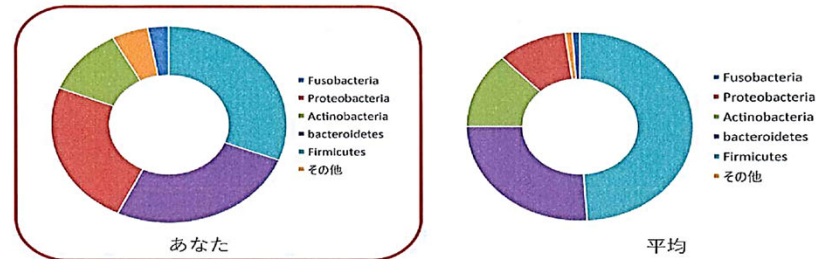
54538

様

報告書発行日： 2020/4/27

専門的な分類で見るあなたの腸内細菌叢バランス

最新の研究で注目されている腸内細菌があなたのおなかの中にどのくらいの割合で生息しているのかを紹介します。



Firmicutes(ファームキューテス門)

腸内細菌叢を構成する主要な細菌の一つです。食事を分解することで私たちがエネルギーを取得することの助けをします。しかし、増えすぎることので肥満のリスクが高くな

Actinobacteria(アクチノバクテリア門)

日本人に多く検出される細菌です。欧米人では5%以下ですが日本人では10%以上も存在します。ビフィズス菌などが属する細菌の種類です。

Bacteroidetes(バクテロイデーテス門)

欧米や日本、発展途上国を含め腸内細菌叢を構成する主要な細菌の一つです。痩せ型の人やベジタリアンの人に多く存在することが知られています。

Fusobacteria(フソバクテリア門)

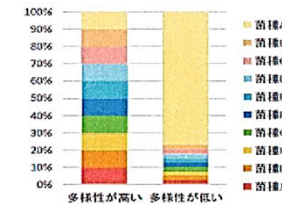
腸管や口腔の疾患を引き起こすと考えられている細菌が多く属する細菌の種類です。

Proteobacteria(プロテオバクテリア門)

感染症の原因菌が比較的多く属する細菌の種類です。バランスが崩れた腸内細菌叢で豊富に検出されることが知られています。

多様性とはなんですか？菌種数とはなにが違うんですか？

菌種数は検査で実際に検出された細菌の数を表しています。一方、多様性指数とは種の豊富さやその均等度から算出される腸内細菌叢の多様性を表します。たとえば右図に示すように同じ10菌種が存在している場合でも各細菌のバランスが均等である方が多様性指数は高くなります。腸内細菌叢は多種多様な細菌がバランスを保ち、お互いに相互作用することで腸内環境を正常に保つ性質があります。そのため腸内細菌叢に関わる疾患では腸内細菌叢の多様性の低下が確認されています。



腸内フローラ検査

腸内フローラのアンバランス=ディスバイオーシスから生じる各種疾患リスク検査です。

肥満、るい瘦、アトピー、アレルギー、湿疹、潰瘍性大腸炎、過敏性腸症候群、リウマチ、不妊、自閉症、不安感のやすさ、ストレス耐性などのリスク判定が可能です。次世代シーケンサーを自前で動かしているため通常2か月かかる検査を約3週間でこなす事が可能です。また精度が高くかつデータベースは高輪クリニックの患者2万人から構築しており豊富な情報をこの検査から獲得できます

今、注目されている腸内細菌プロファイル：バランス攪乱菌



| 菌種名 | 説明 | 平均値 | あなた |
|---|--|--------|--------|
| コプリ菌 Prevotella copri | アメリカ人を対象とした研究で関節リウマチ患者で豊富に検出されることから増えすぎることによって腸内環境に悪影響を与える可能性があります。しかし、健康的な日本人にも一定の割合で存在するため、コプリ菌の存在により必ず関節リウマチになるわけではないと考えられています。 | 1.518% | - |
| セレウス菌 Bacillus cereus | 食中毒を引き起こす細菌として知られています。ホスホリパーゼやエンテロトキシンなど嘔吐誘発性の毒素を産生します。引き起こされる食中毒には「嘔吐型」と「下痢型」が存在することが知られています。 | 0.261% | - |
| 緑膿菌 Pseudomonas aeruginosa | 多数の毒素遺伝子を有し、免疫力の低下によって感染症を引き起こす代表的な細菌として知られています。腸管だけでなく呼吸器や耳、皮膚、尿路など様々な部位で感染症を引き起こすことが知られています。 | 0.166% | - |
| サルモネラ菌 Salmonella | サルモネラ菌は世界的に毎年13億もの感染症による症例が報告されています。口から腸内に侵入し腸熱、腸炎、下痢などを引き起こすとされています。 | 0.162% | - |
| ニューモニエ菌 Klebsiellapneumoniae | 皮膚や咽頭、腸内に生息していることが知られています。免疫力が低下すると特に呼吸器系の感染症を引き起こすことがよく知られています。また、抗生物質耐性を持つ菌種があることがわかっています。 | 0.131% | - |
| パラインフルエンザ菌 Haemophilusparainfluenzae | パラインフルエンザ菌は通常は病原性を示さないと考えられていますが、近年、呼吸器系や菌血症、心内膜炎、胆道感染症など様々な感染症に関連することが報告されています。 | 0.051% | 1.739% |
| ウェルシュ菌 Clostridium perfringens | 食中毒を引き起こす代表的な細菌として知られています。室温で放置された食品などで増殖し食中毒を引き起こすことがあります。この菌によって産生されるエンテロトキシンという毒素が下痢や嘔吐の原因と考えられています。 | 0.003% | 0.217% |
| ヌクリータム菌 Fusobacterium nucleatum | ヌクリータム菌は大腸に腸ようがある患者の腸内に豊富に存在することが知られています。最新の研究で、ヌクリータム菌は腸管細胞に侵入し、腸内の腸よう形成を促進する可能性が報告されています。 | 0.001% | - |
| ムシラギノサ菌 Rothia mucilaginosa | 腸内だけではなく口腔内や気道に常在していることが知られています。菌血症や心内膜炎、髄膜炎などの感染症との関連が報告されています。 | - | - |
| 黄色ブドウ球菌 Staphylococcus aureus | 菌血症、敗血症、心内膜炎、トキシックショック症候群など様々な感染症を引き起こすことが知られています。抗生物質耐性を獲得していることが問題視されています。 | - | - |
| ソルデリー菌 Clostridium sordellii | コレステロールをソルデリー菌などのデオキシコール酸(DCA)産生菌が分解することでDCAが作られます。DCAは肝臓の腫よう形成に関連すると考えられており、高脂肪食を食べ続けることでDCA産生菌が腸内で増殖し、腸内のDCA量が増加することが報告されています。 | - | - |



今、注目されている腸内細菌プロファイル：バランス調整菌



| 菌種名 | 説明 | 平均値 | あなた |
|--|---|---------|--------|
| ビフィズス菌 Bifidobacterium | バランス調整菌として、便秘を改善する効果など腸内環境を整える機能を持ちます。一部のビフィズス菌は食物繊維を分解することで酢酸を作り出すことができます。酢酸は腸内のバリア機能を高めることで腸管出血性大腸菌O157の毒性を抑える効果があります。 | 10.182% | 1.304% |
| フィーカリ菌 Faecalibacterium | クローン病や潰瘍性大腸炎などの腸が炎症を起こしてしまう患者ではフィーカリ菌が減少していることが知られています。また、最新の研究でフィーカリ菌が腸管組織の異常な炎症を抑えることが報告されています。 | 8.598% | 0.435% |
| 乳酸菌 Lactobacillus | バランス調整菌として、腸内環境を整える効果が確認されています。腸管出血性大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、カンピロバクターなど様々な病原菌に対する抗菌作用を持ちます。 | 0.108% | - |
| フラジリス菌 Bacteroides fragilis | 精神疾患のモデルマウスを用いた研究でフラジリス菌の存在によって脳に働きかける化学物質が腸内細菌叢によって作り出され、症状が緩和されることが明らかになっています。 | 0.298% | - |
| アッカーマンシア菌 Akkermansia muciniphila | 痩せ型の人に多く、肥満の人に少ないことが知られています。マウスを用いた研究でアッカーマンシア菌が体脂肪の増加を抑えることが明らかになっています。また、ある種のオリゴ糖を食べることによってアッカーマンシア菌を増やすことができます。 | 0.377% | 1.087% |
| 痩せ菌 Christensenellaceae | 痩せ型の人に豊富に存在することが知られている細菌です。最新の研究で痩せ菌の一種であるミスタ菌が存在することで、腸内細菌叢の構成が肥満型から痩せ型に変化し、体脂肪率や体重が減少することが報告されています。 | 0.094% | - |
| ブチリカム菌 Clostridium butyricum | 炎症を抑える腸管細胞に直接働きかけることで腸管組織の異常な炎症を抑える整腸作用をもちます。また、酪酸産生菌であることも知られており、腸内で食物繊維を分解して整腸作用のある酪酸を作り出します。 | - | - |
| エクオール産生菌 Adlercreutzia equolifaciens | | 0.015% | - |
| エクオール産生菌 Eggerthella lenta | エクオール産生菌は複数の種類があることが確認されています。エクオール産生菌は大豆などに多く含まれるイソフラボンをもとにしてエクオールという物質を生み出すことができます。エクオールはエストロゲンというホルモンと同様の効果を持つと考えられており、更年期障害を含むホルモンが関係する病気を予防する効果が期待されています。 | 0.081% | - |
| エクオール産生菌 Slackia isoflavoniconvertens | | 0.036% | - |
| エクオール産生菌 Eggerthella sinensis | | - | - |
| エクオール産生菌 Slackia equolifaciens | | - | - |



膣内細菌 検査結果レポート



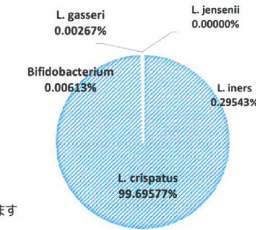
あなたの膣内タイプは…

L. crispatusタイプ

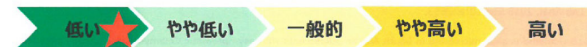
【詳細結果】

| 菌名 | 検出量 |
|-----------------|-----------------|
| L. crispatus | 96888.164 ng/μl |
| L. jensenii | 0 ng/μl |
| L. iners | 287.11171 ng/μl |
| L. gasseri | 2.5922175 ng/μl |
| Bifidobacterium | 5.9553866 ng/μl |

上記に該当しない場合、「高多様性タイプ」となります



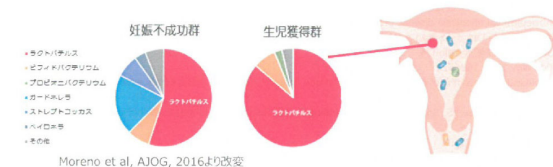
リスクが…



ラクトバチルス属と妊娠の関係

膣内だけでなく、子宮内のラクトバチルス属が90%以下の場合、着床率・妊娠率・継続妊娠率・生産率が著しく低下することが分かっています。

また、L. crispatusタイプの人は、自然早産リスクが低下することも分かっています。以下のグラフは、子宮内の菌の割合を次世代シーケンサーで解析したものです。



Moreno et al, AJOG, 2016より改変

体外受精によって生児を獲得した患者群の子宮内フローラには、ラクトバチルス属が大多数を占めています。一方、妊娠不成功ではラクトバチルス属以外の菌の増殖が見られました。

膣・子宮フローラ検査

膣・子宮フローラのアンバランス=ディスバイオーシスから生じる各種疾患リスク検査です。
生理痛、生理不順、更年期障害、性病、細菌性膣炎、不妊、習慣性流産、性格傾向が判定できます

乳酸菌マッチング検査

氏名: _____ 様 品川メディカルラボ
 カルテNo: 54538 〒140-0001
 採取日: 2020/2/12 東京都品川区北品川1-2-7 アドバンス上地1階
 報告日: 2020/2/22 担当医師 陰山 康成

| 乳酸菌種 | 測定による結果データ | | データ数値比 | |
|---------------------------|-------------------------|------------------|---------------------|--------------------|
| | IFN γ (pg/mL) | IL-10 (pg/mL) | IFN γ /IL-10 | IL-10/IFN γ |
| Lactobacillus paracasei | 4.022 | 7.406 | 0.543 | 1.842 |
| Lactobacillus gasseri | 1.522 | 5.189 | 0.293 | 3.409 |
| Lactobacillus rhamnosus | 1.701 | 4.465 | 0.381 | 2.625 |
| Lactobacillus reuteri | 1.722 | 3.568 | 0.483 | 2.072 |
| Lactobacillus acidophilus | 0.511 | 0.374 | 1.367 | 0.731 |
| Streptococcus faecalis | 1.331 | 1.250 | 1.065 | 0.939 |

乳酸菌刺激による生体応答（サイトカイン等の分泌）には個人差がある事が分かっています。
 炎症性サイトカイン（IFN γ ・IL-10）の応対比から、6種の乳酸菌の中で最も免疫活性を高めるものや
 抗アレルギー作用のあるものがわかります。

| 乳酸菌種 | 乳酸菌のおもな働き | IFN γ | IL-10 |
|---------------------------|---|--------------|--------|
| Lactobacillus paracasei | パラカゼイ菌は、近年、日本で発見、開発された新しい乳酸菌で、免疫調節やアレルギー関連疾患の治療に役立つことが確認されています。 | 13.14% | 15.85% |
| Lactobacillus gasseri | 人間の腸内に多く存在し、ビフィズス菌と並び悪玉菌を抑え、腸内環境を整える善玉菌の代表です。腸内環境を整えるだけでなく、免疫力を高める効果やダイエット効果があるとされています。 | 7.10% | 29.34% |
| Lactobacillus rhamnosus | ラクトバチルス属の乳酸菌で胃酸に強く腸まで届き、腸内環境改善効果、アレルギーやうつ病の改善など幅広く活躍します。またダイエットにも効果的で、内臓脂肪を減らす働きがあります。さらにニキビ菌を殺す作用もあるとされています。 | 9.22% | 22.59% |
| Lactobacillus reuteri | 機能性に富んだ乳酸菌で、口臭改善、HIV患者の下痢期間の短縮、胃腸内環境の改善、機能的腹痛（FAP）の改善、アトピー性皮膚炎の改善、幼児の嚙む虫歯の解消、カンジダ菌に対する予防など多くの保健作用があることが分かっています。 | 11.68% | 17.84% |
| Lactobacillus acidophilus | 酸や酸に強く、百接腸に働きかけることができるので、腸内環境を改善する効果や免疫力を高める効果、口臭改善や胃炎・胃潰瘍予防に役立ちます。 | 33.09% | 6.29% |
| Streptococcus faecalis | フェカリス菌は、強い抗アレルギー効果や免疫力を高める効果が上昇することが知られています。腸管細胞に働きかけ、腸内の異常な炎症を抑えます。 | 25.77% | 8.08% |

※検査結果に於いてのコメントは、目安に基づくものですが、データ数値などのアップデートにより結果詳細情報が変更される場合があります。
 また、検査結果はそのデータの対照し、100%の効果を発揮できるとは必ずしも断言できません。本検査はあくまで参考情報としてご利用ください。

生菌マッチング検査

患者様にあった乳酸菌・漢方・サプリメントを選択するための検査です。リンパ球が誘導するサイトカインの増減を利用し、個々人にベストマッチングの乳酸菌、漢方、サプリメントを選択しています。

内服候補の乳酸菌・漢方・サプリメントと血液または唾液を反応させ、サイトカインの増減を見ることで、科学的に患者様に合った乳酸菌・漢方・サプリメントを処方する方法です。中医学でいう証の科学化であり実に活気的な検査方法です